

# 甲状腺外科草子 78

## 名補佐官の補佐官：藤堂高虎

杉野圭三

「主君を七回変えた男」と呼ばれた藤堂高虎は弘治2年（1556年）近江国（滋賀県）の土豪・藤堂虎高の次男として生まれ、六尺二寸（約185cm）の巨漢であった。

小説に出てくるような波乱万丈の人生を送り、大河ドラマの主人公として最適だと思う人は多いであろう。不思議と未だにドラマ化の話は聞かない。



藤堂高虎（1556—1630）

高虎の若いころは恵まれた人生ではなく、苦勞の連続だったようである。

高虎の仕えた七人の主君を列記する。

- ①浅井長政
- ②阿閉貞征
- ③磯野員昌
- ④織田信澄
- ⑤羽柴秀長
- ⑥豊臣秀吉
- ⑦徳川家康

浅井家に仕えた時に、姉川、小谷城の戦いを経験し、戦場では無双の勇士と言われ、80石を得るようになった。しかし、その後は主君に恵まれず不遇の時期を過ごした。

大きな転機となったのは天正4年（1576）、豊臣秀長に巡り合い、300石で仕官してからである。その後の経歴は長すぎるので以下に簡略化する。

天正5年（1577）：竹田城攻略、1,300石、足輕大将。

天正8年（1580）：三木城攻略、3,300石

天正9年（1581）：但馬小代一揆平定、

6,300石、鉄砲大将

天正11年（1583）：賤ヶ岳の戦い、7,600石

天正12年（1584）：小牧・長久手の戦い、

天正13年（1585）：紀州征伐、10,000石大名。

天正15年（1587）：九州征伐、2万石に加増

天正19年（1591）に秀長死去、養子の羽柴秀保（豊臣秀保）に仕える。

文禄元年（1592）秀保の代理として文禄の役に出征。

文禄4年（1595）：秀保が早世、高野山に出家。

豊臣秀長は秀吉の補佐官として、財政、人事管理、兵站、外交を担当し、人使いの荒い織田信長の苛烈な指令を大過なく完遂し、兄秀吉の出世に重要な役割を担った。

この間、秀長に仕えた高虎はその補佐官として戦術、外交交渉、経営管理、築城、土木工事など多くの経験を積んだものと推測できる。各地の戦場を転戦する間にも、戦闘だけでなく兵站や城塞の構造など多くの様々な知識を吸収したのに違いない。

高虎は生涯に多数の築城に関与した。最初が和歌山城（初期）と言われ、大和郡山では秀長の家老として壮大な城塞を築いた。



和歌山城



大和郡山城



大和郡山城櫓



大和郡山城絵図

恩人である秀長の死去により大きな喪失感を味わい、後に出家を決意したものと推測される。ここまでが高虎の人生前半である。

参考資料：藤堂高虎（村上源三）、同（徳永真一郎）、Wikipedia

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2023年10月19日